

KIRIN

ハーモニア

HARMONIA

キリンホールディングス株式会社
第175期 株主通信

2013年1月1日から2013年12月31日まで



新しい日本を見せよう。



キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長

三宅 占二

ブランドを基軸とした経営を確立・展開し 持続的な企業価値の向上へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配に預かり、厚く御礼申し上げます。

2013年度決算について、ご報告申し上げます。

当期の
概況

**自律的成長の実現に向けて
市場環境に応じた成長戦略を推進**

当連結会計年度における世界経済は、一部の新興国の成長ペースが鈍化したものの、欧州経済に持ち直しの動きが見られるなど、全体として緩やかな回復が続きました。日本経済は、輸出の持ち直しや経済政策の効果などによって景気は緩やかに回復を続け、個人消費も堅調に推移しました。

こうしたなか、キリングroupは、長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2021」（略称：KV2021）実現に向けた最初のステージである「キリングroup2013年-2015年中期経営計画」の初年度として、経営の方向性を自律的成長にシフトし、持続可能な競争力の源となる「ブランドを基軸とした経営」の確立に取り組みました。

国内においては、1月に設立したキリン(株)のも

と、成熟化が進行する国内市場での再成長を実現すべく、酒類・清涼飲料の枠を超えた戦略的資源配分を実施し、強いブランドの育成とグループ連携強化による新たなカテゴリー創造に取り組みました。一方、海外においては、グループ全体の成長を牽引すべく、各地域統括会社が市場環境に応じた成長戦略を推進しました。

これらの結果、海外売上高が順調に増加したことをはじめ、国内清涼飲料の販売数量も前年を上回ったことにより、売上高は増加しました。一方、営業利益は、海外事業全体で増益となったものの、国内酒類の販売減と戦略的ブランド投資に伴う費用増などによって減益となりました。経常利益も減少しましたが、フレイザー・アンド・ニーヴ社の株式譲渡に伴う投資有価証券売却益などにより当期純利益は大幅に増加しました。

なお、1株当たりの年間配当は、前期比7円増配の36円（中間18円、期末18円）となりました。また、株主還元のさらなる充実を図るため、約500億円の自己株式取得を実施しました。

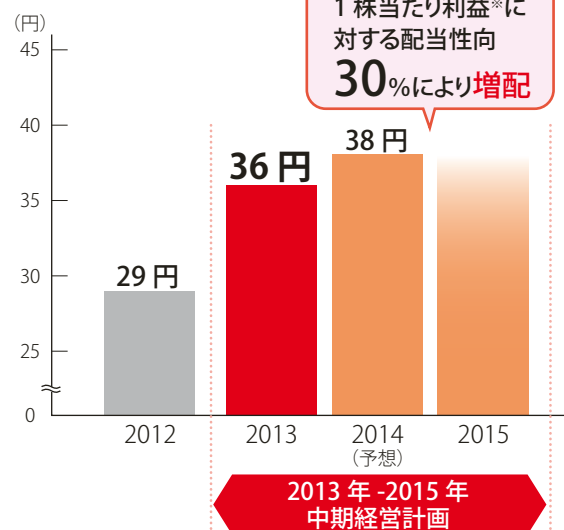
次期の 見通し

商品ブランドの育成と効率性の 追求により競争力を強化

キリングroupは、2014年も引き続き「ブランドを基軸とした経営」を確立・展開し、持続的な企業価値向上を目指します。

日本総合飲料事業においては、「選択と集中」をさらに推し進め、戦略的資源配分によって、強い商品ブランドの育成とお客様にとっての新しい価値の創造を実現していきます。キリンビール社では、強化すべきブランドを明確にし、経営資源を重点的に配分します。メルシャン社では、基盤

1株当たり配当金



ブランドの強化や新商品の投入などにより、ワイン市場の拡大・成長を図ります。キリンビバレッジ社では、中長期的視点からの基盤ブランド育成や、成長性の高い健康機能性領域での新たな価値提案・新商品開発を進めます。

また、これまで事業会社ごとに行っていた新卒採用の一本化や、ダイバーシティ(多様性)の一層の推進などによりグループの組織力を高め、事業を持続的な成長軌道に乗せていきます。

海外総合飲料事業においては、引き続き各地域統括会社による自律的かつスピーディーな経営を推進し、グループ全体の成長を牽引します。オセアニアのライオン社では、厳しい市場環境が続くなか、収益性向上に注力します。ブラジルキ

リン社では、商品力を強化すると同時に、バリューチェーン全体での効率化を進め、さらなる売上拡大と収益性向上を目指します。

これらを通じて、2014年は、日本・海外総合飲料事業ともに対前年増収増益を目指しますが、医薬事業における薬価基準引下げの影響等により、グループ全体としては営業減益を見込んでいます。

なお、配当については、中期経営計画で掲げた連結配当性向30%を目処とし、前年比2円増配の38円を予定しています。

今後とも、皆様の一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

当期の業績と次期の業績予想

	2013年		2014年	
	実績	前期比	予想値	前期比
連結売上高	2兆2,545億円	+3.1%	2兆2,900億円	+1.6%
連結営業利益	1,428億円	△6.7%	1,400億円	△2.0%
連結経常利益	1,321億円	△4.6%	1,220億円	△7.7%
連結当期純利益	856億円	+52.4%	490億円	△42.8%
(参考)				
EBITDA*	3,014億円	△1.9%	3,020億円	+0.2%
1株当たり利益*	122円	+4.3%	129円	+5.7%

〈用語解説〉 EBITDA : Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization
税引き前利益に支払い利息と減価償却費を加算したもので、グローバル企業における金利や税率、会計基準等の違いによる企業の見かけ上の利益格差を抑えるための指標として用いられ、広義のキャッシュ・フローを意味します。

※ 特別損益等の非経常項目を除外し、より実質的な収益力を反映させるための調整をしています。

再成長の実現に向けて 商品ブランドを徹底強化

日本総合飲料事業では、旗艦ブランドである「麒麟一番搾り生ビール」「シャトー・メルシャン」「麒麟 午後の紅茶」をはじめとする強い商品ブランドを育成するとともに、お客様のニーズに応える新しい価値を創出していきます。



麒麟一番搾り生ビール 酒類



「新・一番搾り製法」で一層のうまさを実現

2014年春に発売25周年を迎える「麒麟一番搾り生ビール」の味覚とパッケージをリニューアルしました。麦汁ろ過工程で一番初めに流れ出る麦汁だけを使った贅沢な生ビールである「麒麟一番搾り生ビール」の「一番搾り製法」をさらに進化。「一番搾り」ならではの香味特徴をさらに際立たせ、「飲みやすさ」と「うまさ」を同時に向上させることに成功しました。6月には、一番搾り麦汁と特別素材でつくったギフト限定の「一番搾りプレミアム」も発売します。

今後も、お客様のビールに対する期待に積極的に応えながら、ビール市場全体のさらなる活性化と総需要拡大を図ります。



詳しくはコチラ
パソコンからは
<http://www.kirin.co.jp/products/beer/ichiban/>

ケータイからは



シャトー・メルシャン 酒類

ブランドの魅力を発信

産地・ブドウ・造り手を感じながら、気軽に「シャトー・メルシャン」の魅力を体験できる、初のコンセプトショップ「シャトー・メルシャン トーキョー・ゲスト・バル」が、2014年1月、東京・六本木にオープンしました。コンセプトショップを情報発信基地として、20種類以上の「シャトー・メルシャン」シリーズとワインを引き立てるおいしい料理、さらにワインの造り手によるセミナーなどのイベントを通じて、同シリーズの魅力をお客様にお伝えするとともに、日本ワイン市場全体の活性化を図っていきます。



詳しくはコチラ

パソコンからは
<http://www.chateaumercian.com/>

ケータイからは



成果創出に向けた取り組みを加速します

長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2021」(KV2021)の実現に向けた中期経営計画の2年目となる2014年は、日本総合飲料事業の持続的成長をより確かなものにするために具体的な成果を創出し、2013年以上の利益水準を目指します。グループが一体となって重要課題である「商品ブランドの育成」と「CSV※の実践」に取り組むことで、お客様や社会にとっての価値創造を加速させていきます。

「商品ブランドの育成」では、旗艦ブランドである「一番搾り」「シャトー・メルシャン」「午後の紅茶」を徹底強化するほか、ビール類、ワイン、清涼飲料の各カテゴリーにおいて重点ブランドを定め、次なる柱として育成していきます。一方で、お客様ニーズを踏まえた新しい価値の創造にも積極的にチャレンジします。グループの技術力を駆使して、酒類においては20代などの若年層をターゲットとした商品や高付加価値商品の提案、清涼飲料では健康機能性領域における新たな提案などに取り組めます。

また、「CSVの実践」としては、「事業活動を通じた地域活性化」「独自技術を活用した健康増進」「環境への取り組み」などのアプローチによって、社会と共有できる価値の創造を目指します(→P7参照)。

※ CSV: Creating shared value (社会と共有できる価値の創造)

キリン株式会社
代表取締役社長

磯崎 功典



キリン 午後の紅茶 清涼飲料

No.1紅茶飲料ブランドをさらに強化

紅茶飲料のNo.1※ブランドである「キリン 午後の紅茶」を一層強化し、5年連続の販売実績更新を目指します。「キリン 午後の紅茶 おいしい無糖」では、再生ペット素材100%からつくる環境配慮型リサイクルペットボトル「R100PETボトル」を導入し、パッケージをスタイリッシュにリニューアル。「おにぎり公式飲料」としての活動を進化させ、様々な食事に合う“日常のお茶”としてのさらなる浸透を図ります。

また、ストレートティー、レモンティー、ミルクティーのレギュラー3品のさらなる強化と、フレーバーティー「HAPPINESS!」の定番化にも取り組みます。

※ 株式会社食品マーケティング研究所調べ



詳しくはコチラ
パソコンからは
[http://www.kirin.co.jp/
products/softdrink/gogo/](http://www.kirin.co.jp/products/softdrink/gogo/)

ケータイ
からは



自律的かつスピーディーな経営で キリングループの成長を牽引



ライオン社
CEO
スチュアート・
アーバイン



ブランド強化と事業構造改革で 収益性を向上します

オーストラリア、ニュージーランドにおける事業環境は、2014年も引き続き予断を許さない厳しい状況が続くと予想されます。

そのなかで、酒類事業では、主力ブランドの強化や、輸入プレミアムビール、クラフトビール（地ビール）、サイダー（りんご等を主原料とした発泡性の酒類）といった成長カテゴリーを強化することで、売上増を目指します。同時に継続的なコスト削減に取り組み、安定的に利益を生み出していきます。

一方、市場競争が激化する飲料事業においては、2013年に好調だったフレーバードミルクやプレミアムチーズといった高付加価値カテゴリーでの地位向上を目指します。また、継続的に進めてきた生産拠点の最適化に加え、さらなるコスト削減策と長期的視点にもとづく事業構造改革を実行し、収益性の向上を図ります。



キリン社が開発・品質管理をサポートした「KIRIN サイダー「薫り」」

海外総合飲料事業においては、地域統括会社がそれぞれの市場環境に応じた自律的かつスピーディーな経営を推進しています。キリンホールディングス社はグローバル本社として、事業・地域を超えた戦略的資源配分と、機能共有によるシナジー創出を促進していきます。

Asia & Oceania



Australia

Lion





Coca-Cola Bottling
Company of
Northern New England

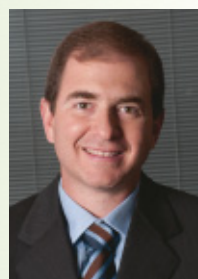
North
America
& Brazil



Brazil

BRASIL KIRIN

東山農産加工



ブラジルキリン社
Executive President
ジーノ・ディ・
ドメニコ

グループ一丸となって 持続的な成長を目指します

新社名「ブラジルキリン」としてスタートした2013年、基盤ブランドの強化に取り組むとともに、ブラジル初の“KIRINブランド”商品であるファイバー（食物繊維）入りコーラ、ガラナ飲料「KIRIN Fibz」や、エナジードリンク「ecco!」など新コンセプトの商品を積極的に投入しました。2014年も、ビールと飲料の双方の市場において、ブランド力の強化や商品群の拡充、販売網の拡大に積極的にチャレンジしていきます。

ビール事業では、基盤ブランドの強化や「一番搾り」の投入などによって強力なブランドポートフォリオを構築するとともに、引き続きブラジル全土における顧客接点の拡大に取り組みます。また、飲料事業では、炭酸飲料の「スキン」を中心とした基盤ブランドの強化に加え、イノベーションによる高付加価値商品の販売強化を図ります。



社会と共有できる新たな価値を創造

福島県産の和梨を使って 農業の元気を支援

キリングループは、福島県の農業の復興支援を目的に、2013年11月に同県産の和梨果汁を使用した期間限定商品「キリン 氷結 和梨」を発売しました。氷結ブランドを通じて、全国のお客様に福島県産物のおいしさを知っていただくとともに、この商品の売上1本につき1円を東北の農業の復興支援に活用しています。

今後も東北3県の農業・水産業の支援活動を行っています。



詳しくはコチラ
パソコンからは
[http://www.kirin.co.jp/
csv/kizuna/](http://www.kirin.co.jp/csv/kizuna/)

ケータイ
からは



プラズマ乳酸菌®で 日々の健康増進をサポート

キリングループは、「キリンの健康プロジェクト」※の一環として、当社の独自素材であるプラズマ乳酸菌®を配合した「小岩井 まもるチカラの乳酸菌」「キリン 守って!力水」「キリン からだまもるみず。プラズマ乳酸菌®の水」を発売しました。

今後も、毎日の暮らしに「健康」という価値をプラスし、事業を通じてライフスタイルの提案に取り組んでいきます。

※「おいしさ」「楽しさ」に「健康」を加えた「キリン プラス・アイ」ブランドを展開している、2008年5月に発足したキリングループの横断プロジェクトチーム

キリンの健康プロジェクト

KIRIN Plus-i



詳しくはコチラ

パソコンからは
[http://www.kirin.co.jp/
csv/plus-i/](http://www.kirin.co.jp/csv/plus-i/)

ケータイ
からは



サッカーで 日本を元気に

キリングループは、「新しい日本を見せよう。」というスローガンのもと、サッカーで日本を元気にするための活動を展開中です。サッカー日本代表応援デザイン商品の発売やイベントの開催などを通じて、ファンやサポーターとともに日本代表の活躍を応援しています。

また、宮城県・岩手県・福島県の小学校を対象としたサッカー教室「JFA・キリン スマイルフィールド」を開催するなど、次世代の日本の元気を担う子どもたちの夢や健康を育む活動に力を注いでいます。



詳しくはコチラ

パソコンからは
[http://www.kirin.co.jp/
csv/soccer/](http://www.kirin.co.jp/csv/soccer/)

ケータイ
からは



単元株式数変更のご案内

当社は、個人投資家による投資機会の拡大および株式の一層の流動性向上のため、2014年4月1日をもって単元株式数を1,000株から100株に変更いたします。

Q 株主側で必要な手続きはありますか？

A 皆様に行っていただく特段のお手続きはありません。

Q いつから100株単位で売買できますか？

A 2014年4月1日以降から可能です。

(特別口座に記録された株式をご所有の株主様の場合)
三菱UFJ信託銀行に開設された特別口座から株式の売買を行うことはできません。また、特別口座にある株式を売却するためには証券会社等に開設された証券口座に株式を振替える必要があります。株式の振替については同行証券代行部(0120-232-711)へお問合せください。

Q 単元引下げ後の株主優待制度は？

A 2014年12月31日現在当社株式を単元(100株)以上保有する株主様が、対象となる予定です。**新制度では、当社株式を1,000株以上保有する株主様に加え、100株から999株まで保有する株主様にも、別の優待品をご用意する予定です。**

なお、2013年12月31日現在当社株式を1,000株以上保有する株主様を対象とした株主優待制度では、下記の優待品を選択いただけます。

2013年12月末現在、当社株式を1,000株以上保有の株主様へ

株主様ご優待 各種優待品のなかから一つ選択していただけます。

■キリンビール商品詰め合わせ

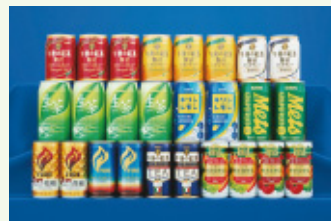
酒類/ノンアルコール飲料の詰め合わせセットです。



※商品の内容は変更となる場合がございます。

■キリンビバレッジ商品詰め合わせ

清涼飲料の詰め合わせセットです。



※商品の内容は変更となる場合がございます。

■ビール・清涼飲料詰め合わせ

キリンビールの「キリン一番搾り生ビール」とキリンビバレッジの清涼飲料の詰め合わせセットです。



※商品の内容は変更となる場合がございます。

■オーストラリアワイン詰め合わせ

メルシャンが輸入する、オーストラリアワインのセットです。



※商品の内容は変更となる場合がございます。

■サッカー日本代表 T シャツ

サッカー日本代表の株主様限定オリジナルデザイン T シャツです。



※商品の内容は変更となる場合がございます。

■「キリン飲酒運転根絶募金」へのご寄付

ご希望の株主の皆様から商品の代わりに3,000円を寄付金としてお預かりいたします。

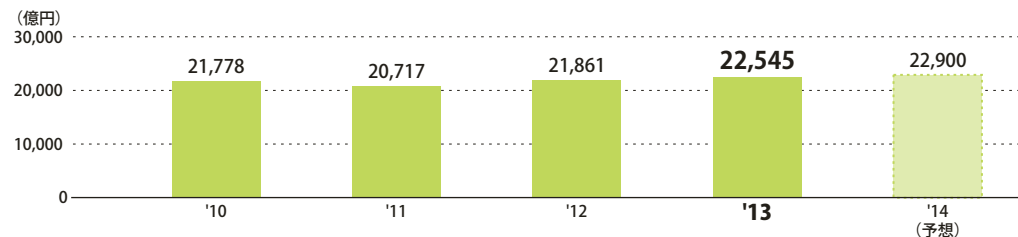
■不要

ご優待品が不要の方は選択ください。

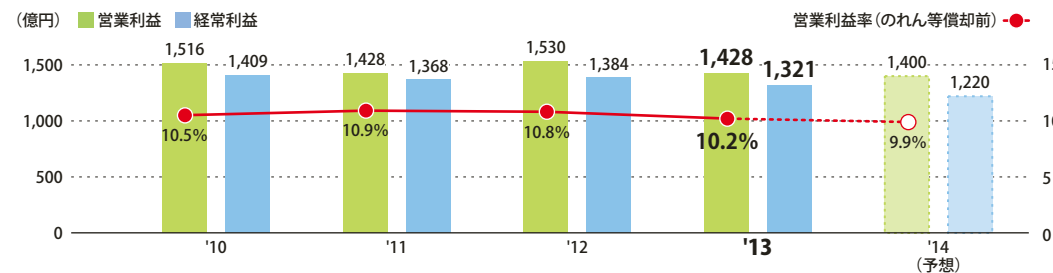
詳細につきましては、3月初旬、対象の株主様宛に送付される「定時株主総会招集ご通知」に優待申込書が同封されていますのでご確認ください。

当期の連結財務ハイライト

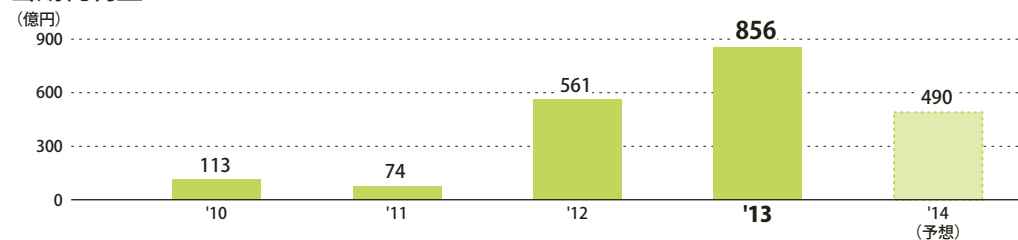
売上高



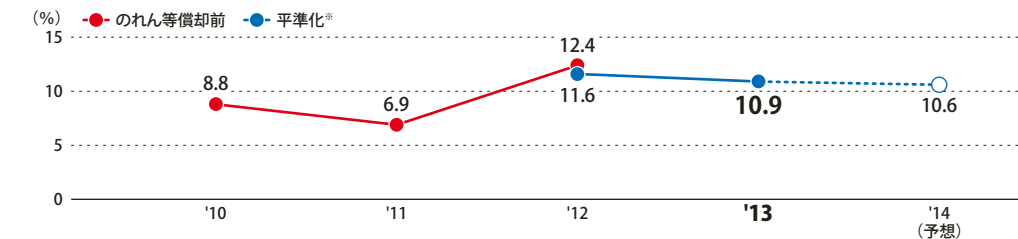
営業利益・経常利益・営業利益率



当期純利益



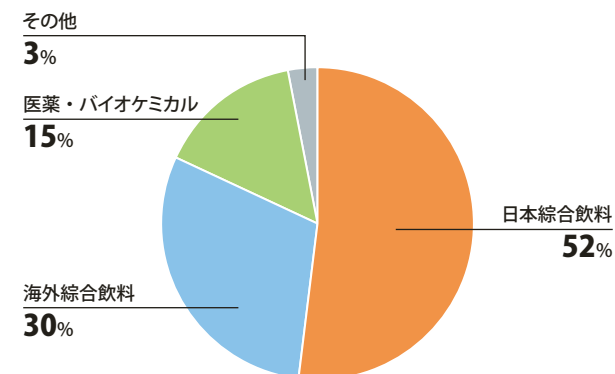
ROE



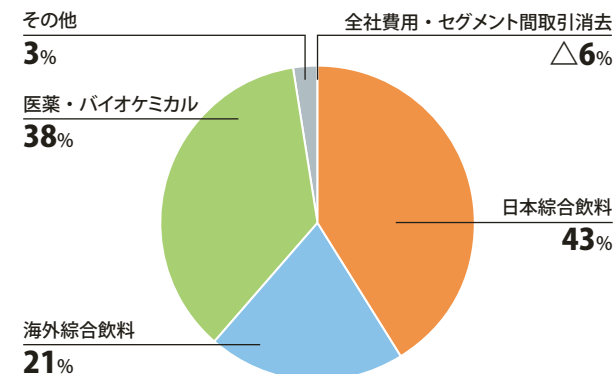
※ のれん等償却額や特別損益等の非経常項目を除外し、より実質的な収益力を反映させるための調整をしています。

セグメント別の状況

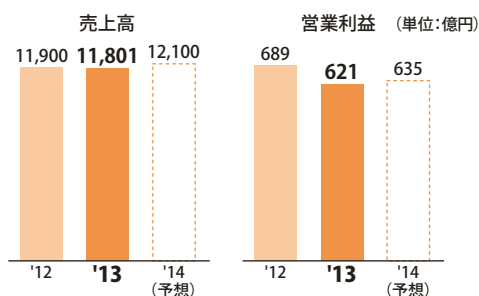
セグメント別売上高 (2013年)



セグメント別営業利益 (2013年)



日本総合飲料事業



売上高
11,801 億円
前期比 △0.8%

営業利益
621 億円
前期比 △9.9%

ビール類の販売数量減とブランド育成に向けた投資増加により減収減益

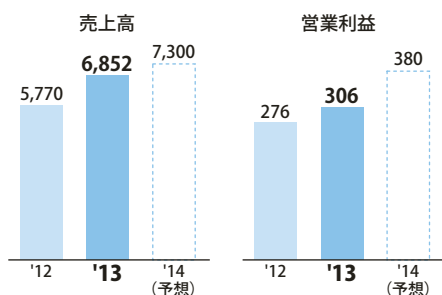
麒麟ビール社では、「麒麟一番搾り生ビール」「麒麟のどろく生」の販売が前年を下回った一方、5月に発売した新ジャンル商品「麒麟 澄みきり」やRTD*カテゴリーの販売が好調でした。メルシャン社では、ワイン原料高騰などの影響を受け、9月に価格改定を行いました。販売数量は前年を上回りました。麒麟ビバレッジ社では、主力の「麒麟 午後の紅茶」の販売が前年を上回ったほか、「麒麟 世界のKitchenから ソルティライチ」も販売を大きく伸ば

しました。

これらの結果、日本総合飲料事業において、麒麟ビバレッジ社の販売数量が前年を上回ったものの、麒麟ビール社の販売数量減により売上高が減少し、ブランド強化のための戦略投資や円安による原材料コスト上昇などにより、営業利益も減少しました。

※ RTD: 栓を開けてそのまま飲める低アルコール飲料で、Ready to Drink の略

海外総合飲料事業



売上高
6,852 億円
前期比 +18.7%

営業利益
306 億円
前期比 +11 %

豪州酒類事業の好調により増収増益

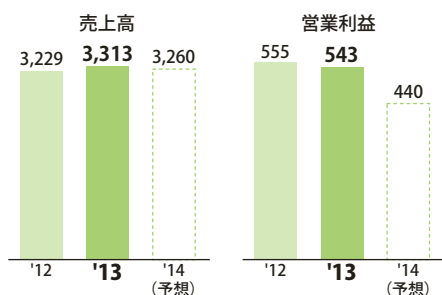
豪州ライオン社の酒類事業では、総需要の減少傾向が続くなか、主力ブランドの堅調な販売、輸入プレミアムブランドの貢献等により、販売は前年を大きく上回りました。一方、飲料事業では、乳飲料などの高付加価値商品ブランドの強化を図るとともに、引き続き生産拠点の最適化などの構造改革を進めました。これらの結果、ライオン社の売上高、営業利益はともに増加しました。

ブラジル麒麟社では、ブラジルでの総需要が鈍化する

なか、ビール・清涼飲料の基盤ブランドを強化するとともに、顧客接点の拡大を図りました。その結果、ブラジル麒麟社の売上高は増加しましたが、競争激化に対応した販売費増加により営業利益は減少しました。

これらの結果、海外総合飲料事業の売上高、営業利益はともに増加しました。

医薬・バイオケミカル事業



売上高
3,313 億円
前期比 +2.6%

営業利益
543 億円
前期比 △2.1%

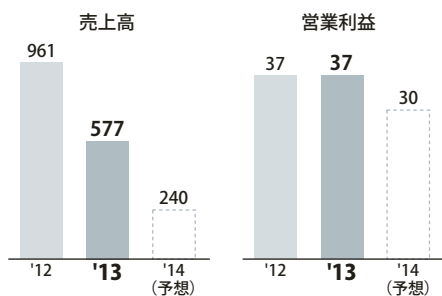
医薬品の堅調な販売と円安効果により増収

医薬事業では、協和発酵麒麟の抗アレルギー点眼剤「パタノール」が花粉飛散量の増加により、好調な販売を記録しました。また、新薬として、パーキンソン病治療薬「ノウリアスト」などを発売しました。医薬品の輸出および技術収入では、輸出は堅調であったものの協和麒麟富士フィルムバイオロジクス(株)からの技術収入の一部が次期の計上となったことから売上高、営業利益は減少しました。海外では、プロストラカン社の主力製品が順調に伸張しました。

バイオケミカル事業では、協和発酵バイオ社の医薬用アミノ酸その他医薬品原薬などの販売が堅調に推移し、ヘルスケア領域では通信販売事業が順調に伸張しました。また、海外売上高は、円安の影響もあり前年を上回りました。

これらの結果、医薬・バイオケミカル事業全体では、売上高は増加したものの営業利益は減少しました。

その他事業



売上高
577 億円
前期比 △39.9%

営業利益
37 億円
前期比 △0.8%

市場軟化と円安によるコスト上昇により減収減益

2013年3月、麒麟協和フーズ社の全株式を段階的に譲渡する株式譲渡契約を三菱商事(株)と締結し、7月に発行済株式の約81%を譲渡しました。第2四半期までの同社においては、天然調味料・醸造調味料などの主力製品の売上が低迷し、海外市場における核酸系うまみ調味料の市場軟化、円安による仕入・原材料コストの上昇により、売上高、営業利益ともに減少しました。

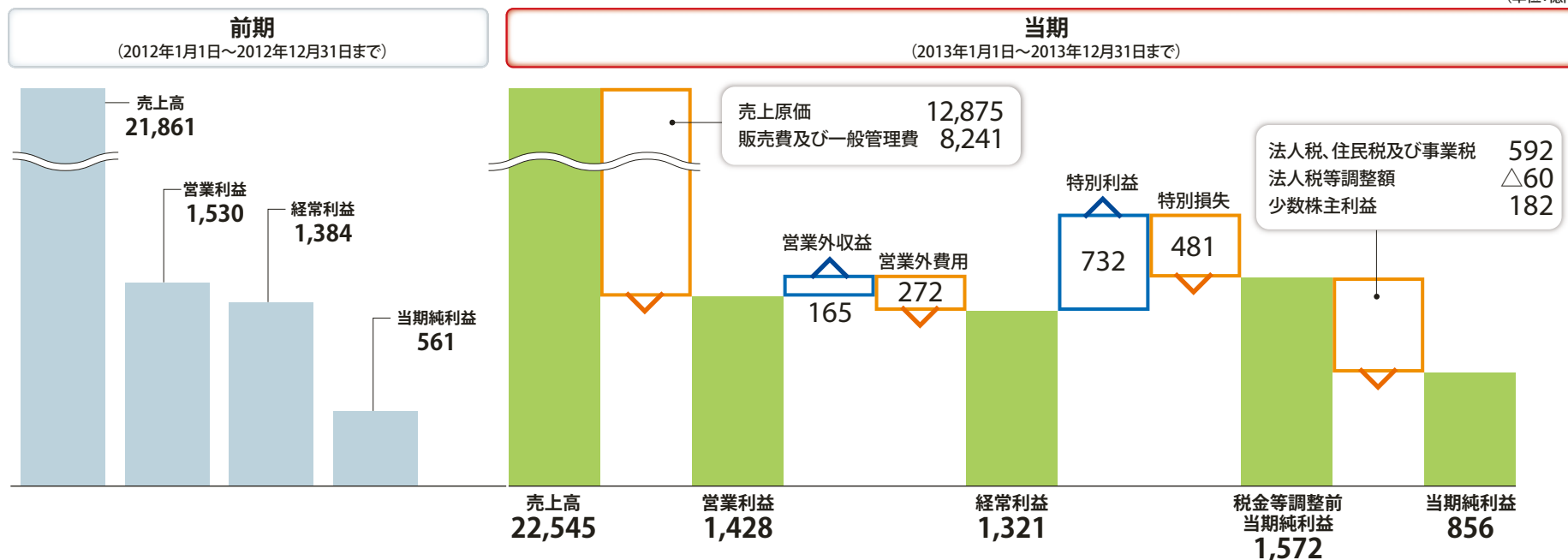
小岩井乳業社では、主力商品の販売が好調に推移し、コ

スト削減でも一定の成果を上げましたが、競争激化によりプロセスチーズ等の家庭用乳製品の販売が減少し、原料価格高騰の影響を受けました。

これらの結果、その他事業全体として、売上高、営業利益はともに減少しました。

連結損益計算書の概要

(単位:億円)



POINT
1

売上高

海外の売上高が順調に増加したほか、国内清涼飲料の販売が前年を上回ったことにより、684億円増加しました。

POINT
2

営業利益・経常利益

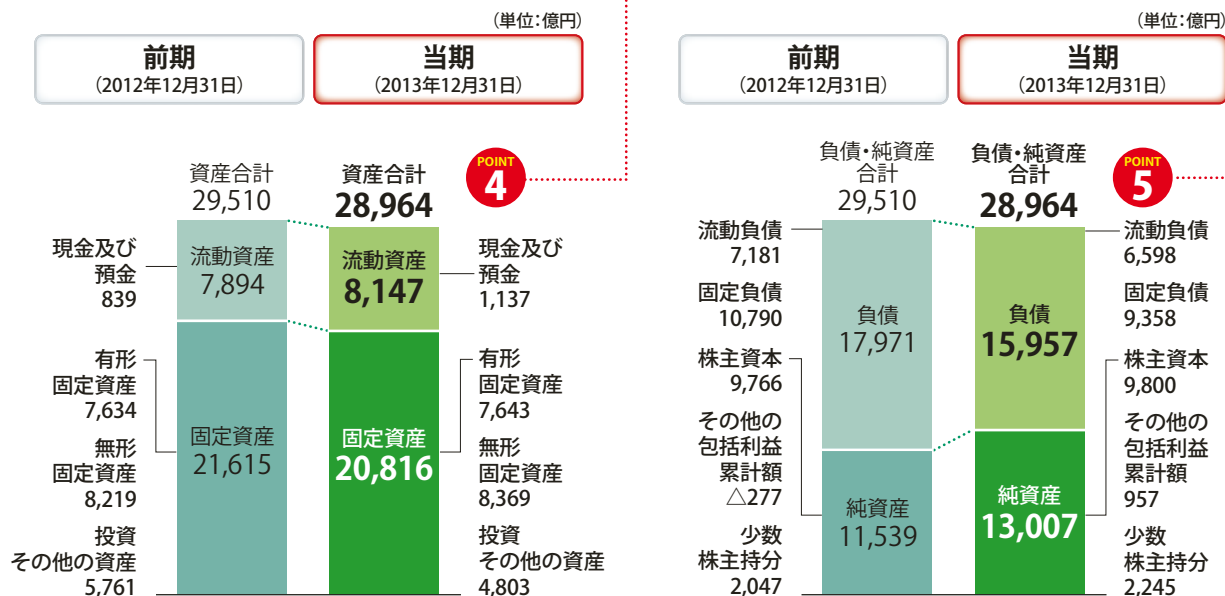
豪州酒類事業が好調だったものの、ブラジルキリン社の利益が減少し、また、国内の戦略的ブランド投資による費用増および国内酒類の販売減により、営業利益は102億円、経常利益は63億円減少しました。

POINT
3

当期純利益

フレイザー・アンド・ニーヴ社の株式譲渡によって投資有価証券売却益を計上したことなどにより、294億円増加しました。

連結貸借対照表の概要



POINT
4

資産

在外子会社の為替影響により無形固定資産が増加したものの、フレイザー・アンド・ニーヴ社株式売却等による投資有価証券の減少により、546億円減少しました。

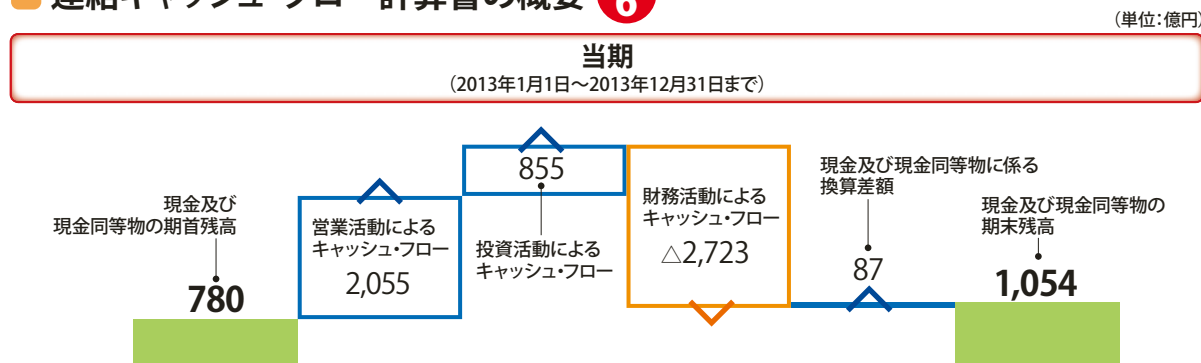
POINT
5

負債・純資産

有利子負債の返済等により負債が2,014億円減少し、為替変動による為替換算調整勘定の増加等により、純資産が1,468億円増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

POINT
6



POINT
6

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、対前年で65億円減少し、2,055億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有価証券及び投資有価証券の売却により、855億円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の償還、コマーシャルペーパーの減少、自己株式の取得等により、2,723億円の支出となりました。

■ 会社概要 (2013年12月31日現在)

商号	キリンホールディングス株式会社
設立	1907年(明治40年)2月23日 ※ 2007年7月1日純粋持株会社化に伴い、「麒麟麦酒株式会社」より商号変更
資本金	102,045,793,357円
従業員数	62人(キリンホールディングス連結従業員数:39,922人)
本社所在地	〒164-0001 東京都中野区中野四丁目10番2号 中野セントラルパークサウス
売上高	2,254,585百万円(2013年12月期キリンホールディングス連結業績)
主な事業	グループの経営戦略策定及び経営管理

■ 役員一覧 (2014年3月27日現在)

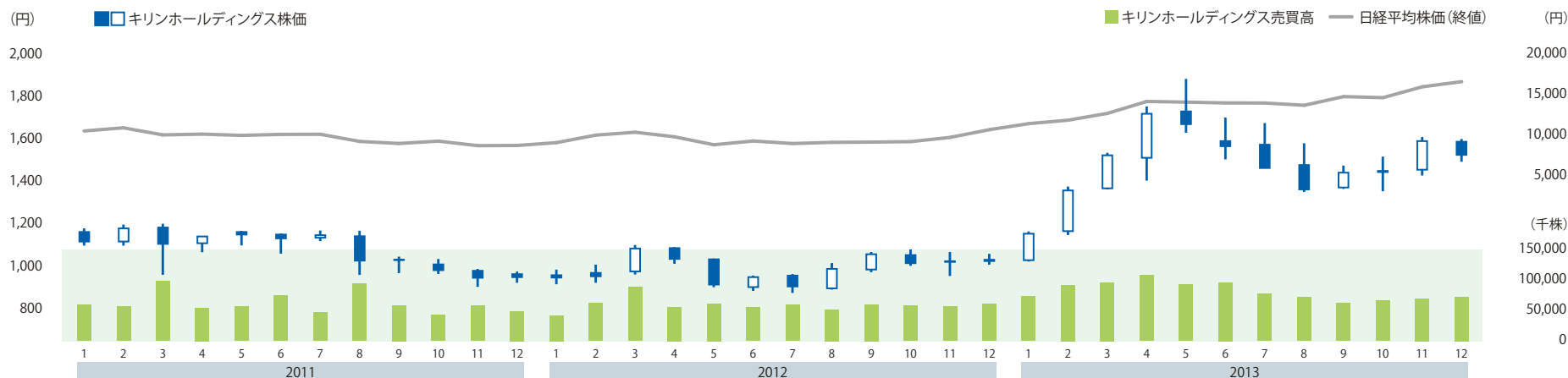
代表取締役社長	三宅 占二	常勤監査役	鈴庄 一喜
代表取締役常務取締役	小林 弘武	常勤監査役	鈴木 政士
代表取締役常務取締役	中島 肇	社外監査役	大根田 伸行
常務取締役	西村 慶介	社外監査役	岩田 喜美枝
取締役	伊藤 彰浩	社外監査役	橋本 副孝
社外取締役	三木 繁光		
社外取締役	有馬 利男		

■ グループ会社一覧 (2013年12月31日現在)

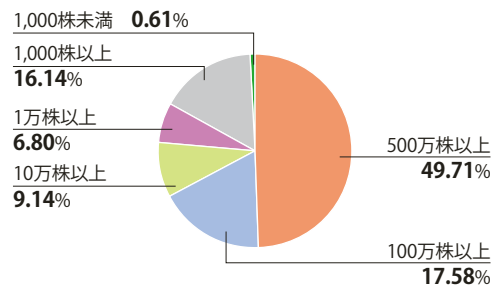


※1 機能分担会社 ※2 持分法適用会社

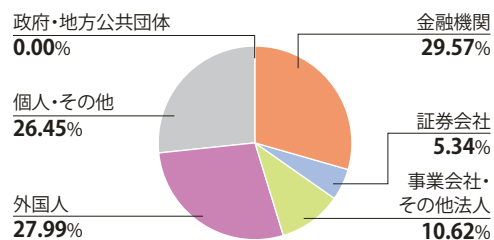
日経平均株価・株価・売買高の推移 (東京証券取引所)



所有株数別分布状況



所有者別分布状況



発行済株式総数 965,000,000株

株主数 127,167名

大株主 (千株未満を切り捨て、小数点以下第3位を切り捨て)

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	48,223	4.99
キリンホールディングス株式会社	35,659	3.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	34,562	3.58
明治安田生命保険相互会社	32,996	3.41
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505041	20,878	2.16
株式会社磯野商会	20,772	2.15
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,251	1.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	17,107	1.77
野村證券株式会社	15,561	1.61
ザバンクオブニューヨークメロン エスエーエヌビー 10	9,772	1.01

株式に関する手続きについて

1. 証券会社等の口座に記録された株式

証券会社等の口座に記録された株式の各種お手続きにつきましては、一部を除き原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
●郵送物の発送と返戻に関するご照会 ●支払期間経過後の配当金に関するご照会 ●株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00)
●上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

2. 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記連絡先までお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
●特別口座から一般口座への振替請求 ●単元未満株式の買取・買増請求 ●住所・氏名等のご変更 ●特別口座の残高照会 ●配当金の受領方法の指定※	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00) 手続き用紙のご請求方法 音声自動応答電話によるご請求 ☎ 0120-244-479 インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/
●郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ●支払期間経過後の配当金に関するご照会 ●株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	

※ 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
株主確定日	定時株主総会・期末配当金12月31日 中間配当金6月30日
定時株主総会	3月下旬開催
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00)
公告の方法	電子公告により行います。但し、事故 その他やむを得ない事由によって電 子公告による公告をすることができ ない場合は、日本経済新聞に掲載し て行います。 公告掲載URL http://www.kirinholdings.co.jp/
証券コード	2503

ご案内

1. 2014年以降の上場株式等の配当等に係る源泉徴収税率について

2014年1月1日以降に、個人の株主様がお支払いを受ける上場株式等の配当等には、原則として**20.315%***の源泉徴収税率が適用されます。

※ 所得税15%、復興特別所得税0.315%、住民税5%。なお、株主様によっては異なる税率が適用される場合もございます。詳細につきましては、最寄の税務署、税理士等にお問合せください。

2. 少額投資非課税制度口座（NISA口座）における配当金のお受け取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座でご所有される場合、配当金につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関（証券会社等）を通じて配当金を受け取る方式である「**株式数比例配分方式**」を、お選びいただく必要がございます。NISA口座に関する詳細につきましては、お取引の証券会社等にお問合せください。



この報告書は、「FSC® 認証紙」および石油系溶剤の代わりに植物油を用いた「植物油インク」を使用し、有害廃液を排出しない「水なし印刷方式」で印刷しています。本冊子の印刷・製本工程で使用した電力は、日本自然エネルギー株式会社が発電したグリーン電力（風力）でまかっています。